

社会保障

個人の主観的体験談×

医療法が一部改正され、6月から医療機関のウェブサイトに新たな広告規制の対象となる。美容医療や、がんが治るなどといった自由診療の広告表現が問題視されるなか、副作用やリスクの説明のない、事前・事後の写真や、患者の体験談などはインターネット上でも禁止される。違反には都道府県が中止や是正命令も出せるようになり、罰則もかかる。

規制内容の明確化

東京・神田神保町にある一般財団法人「日本消費者協会」の一角に、医療機関のウェブサイトを監視する「医療機関ネットパトロール相談室」がある。10人前後のスタッフがパソコンで医療機関のサイトをチェック。嘘や大げさな表現がないか確かめる。

事業は、改正医療法の成立を機に、同協会が厚生労働省の委託を受けて、昨年8月から実施。12月までに730のサイトをチェックし、112の医療機関に改

ゆうゆうLife



ネットの医療広告に法規制

善を通じた、複数回の通知でも改善されなければ、6月からは都道府県などに情報提供、都道府県が立ち入り検査や、中止・是正命令も行う。

同協会専務理事の唯根妙子さんは、「何が禁止か、知らない事業者が多い。改善の要請があったら、それをきっかけに自衛、自前に動き出せば、1、2年目の効果としては大きいと思う」と話す。平成30年度中に1500のサイトをチェックする。

【広告として不適切な例】

- 「国内最高峰の〇〇治療を行うクリニック」
 - 「〇〇満足度ランキング△△部門全国総合第1位」
 - 「この夏おすすめ！特別プラン」
 - 「誰でも、どんな〇〇にも治療効果が期待できます」
 - 「最先端医療のがん〇〇療法に副作用はありません」
 - 「モデルも通う、〇〇クリニック」
- (厚生労働省の資料から)

トラブルが問題になり、内閣府の消費者委員会から2度にわたる対策要請があ



医療機関のサイトに目を光らせるネットパトロールのスタッフら — 東京都千代田区の日本消費者協会

り、医療法が改正された。合わせて、規制される内容も明確化された。禁止されるのは、「絶対安全な手術です」などの「虚偽広告」▽科学的根拠の乏しい治療法の効果を強調する「誇大広告」▽「最高の医療を提供しています」などの「比較優良広告」▽個人の主観に基づいた「体験談」▽費用やリスク、治療内容「グサイト」や「口コミサイト」

「推奨サイト」にも

「推奨サイト」にも、個人（アフィリエイト）が報酬を受けて医療機関などを推奨するブログも規制の対象。記載内容によつては、こうしたサイトの運営主体や個人も指導の対象になる。

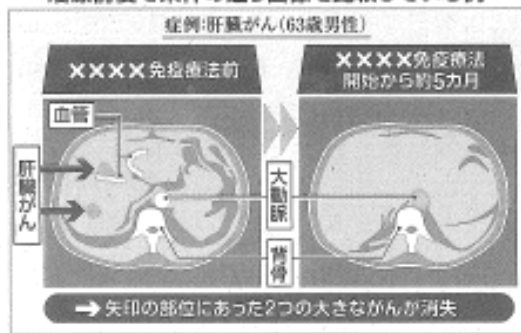
ただ、ウェブサイトの中には、専門家でないと加工したことが分らない画像や、書き込みをしている人が報酬を受け取っているかどうかが把握できないプロト

自由診療を行う医療機関などがウェブサイトで示す「術前・術後の写真」には、改正医療法で「虚偽」や「誇大」広告にあたるものもある。

国立がん研究センター・がん対策情報センターの若尾文彦センター長は「異なる条件で撮影した写真を掲載するクリニックはある。いくつかのパターンがある」と注意喚起する。

ある自費診療を推奨するサイトには、肝臓がんの「治療前・治療後」のCT（コンピュータ断層撮影）画像が掲載されている。イラストは、それをモデル化したものだ。若尾センター長は「治療前の写真では

治療前後で条件の違う画像を比較している例



「術前・術後」、虚偽まがいも 撮影条件変えて“治療効果”

大動脈や血管が白っぽく映っており、治療後の写真では黒っぽく映っている。これは、治療前の写真は造影剤を使って撮り、治療後の写真は造影剤なしで撮ったため。同じ条件で撮れば、治療後の画像にも腫瘍が映った可能性がある」と指摘する。

別の自費診療を行うクリニックは、腎臓がんの患者のCT画像を時系列で並べている。画像は、腎臓が大きく映る位置から、少しずつ低い位置での画像へ移行しており、腫瘍が小さくなったように見える。他にも、腫瘍が小さく映るようになり、腎臓のエクス線写真を併用する患者の腫瘍の縮小を、自費の治療効果として掲載したりするところもある。

若尾センター長は「術前・術後の画像が同じ人のものであるか、時系列は正しいのか、本当のところは分からない。クリニックのなかには改正医療法を見据えて、サイトから事例写真を削除し、資料請求や説明会などの規制されない場に移す動きもある」と潜在化を心配する。

医療機関のサイトに、罰則つき改正医療法が適用されるのは大きな一歩。そう指摘しつつも、若尾センター長は「患者さんは、まずは主治医に相談してほしい。主治医はそれに丁寧に応えないといけない。そして、結局、患者さんは効果の分からない治療に走ってしまう。医療者が不適切なサイトを通報していくことも、今後

は重要だと感じている」と話している。

2018.5.24